

活動報告書

2023-2024

苦しく辛い経験をした子どもは、誰よりもつよくやさしくなれる。
被災地の子どもたちの成長は、私たちの希望です。



© Yui Yoshikawa

公益社団法人ハタチ基金

〒164-0001

東京都中野区中野5丁目15番2号

<https://www.hatachikikin.com>



0歳



5歳



10歳



15歳



20歳



ハタチ基金

ハタチ基金は、
東日本大震災発生時に0歳だった子どもが、
無事にハタチを迎えるその日まで、
心のケアや学び・自立の機会を継続的に提供します。

東日本大震災の直後、被災地の子どもたちは不安な日々を送り、多くの課題に直面していました。これらの課題を解決するため、震災から4ヶ月後の2011年7月にハタチ基金を立ち上げました。あれから10年以上の月日が経ち、被災地の課題や状況は大きく変化しています。現在は「2031年 復興のその先を切り開く力を、子どもたちに」をスローガンとし助成を行っております。ご寄付は、震災が理由の「できない」をなくし、どこに生まれても、どんな経験をして、「人生は自分で創っていく」と子どもたちが思えるような機会を提供するための活動に使わせていただきます。活動報告書は、昨年度に皆さまからいただいたご支援をどのように子どもたちへ届けたかをお伝えするものです。ぜひご覧ください。



2031年復興のその先を切り開く力を、子どもたちに。



代表理事よりご挨拶

はじめに、令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に、謹んでお悔みを申し上げます。また、被災された皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

大きな災害が発生した際は、住民の心身の健康を維持するため、生活の再建のために、様々な支援が必要となります。子どもたちが過ごす環境づくりもその一つです。能登の避難所へは、東日本大震災を体験した方々も足を運びました。ハタチ基金で助成させていただいた団体や、その団体で支援を受けた経験のある若者も支援に向かったと聞いています。

そのうちの数名とは、私も直接お会いしました。「被災し、数々のサポートを受けた経験があるからこそ、困っている方の力になりたい」と語る若者のまなざしには、優しさと、たくましがにじんでいました。そのりりしい姿に、胸が熱くなりました。

東北では、こうした社会への貢献意欲が高い若者が、続々と育っています。長年のご支援に、改めて感謝を申し上げます。

東日本大震災の影響を受けた子どもたちが、20歳になるまで支え続ける、と決意しスタートしたハタチ基金も、皆さまのおかげで、無事に13年目を迎えることができました。

全体から見れば、東北の復興は順調に進んでいるように思われます。しかし、被災によって過疎化が深刻化し、子どもの数の減少や、部活動や習い事などの体験機会の縮小が起きている自治体もあると聞いています。原発事故の影響が色濃く残る福島県の沿岸部では、まちやなりわいの再建に向けて、現在もたくさんの方々が尽力されている状況です。復興が完了したと胸を張って言えるようになるまでには、まだまだ時間と支援を要します。

ハタチ基金は、子どもたちの健やかな成長を願って、引き続き活動を続けてまいります。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

公益社団法人ハタチ基金
代表理事

今村 久美



現場からの声

[子どもの声]

背中を押してくれた場所「女川向学館」

一般社団法人まちとこ / 高校1年生（活動：女川向学館プログラム）

私は小学生の頃から女川向学館に通っていて、勉強はもちろん、さまざまなサポートをしてもらってきました。

中学生になってからは、英語の授業が好きで海外に興味を持っていました。それを向学館のスタッフさんが理解してくれて、さまざまな機会を提供してくれました。中でも、アメリカの大学生と交流できたことが思い出に残っています。

海外の文化に興味があったので積極的に話しかけようと試みましたが、急に自分の英語力に自信がなくなりました。そんな時に、引っ込み思案な私を向学館のスタッフさんが後押ししてくれました。間に入って話を広げてくれて、私も次第に会話できるようになったことを覚えています。それ以来、私は少しずつ自分の英語力に自信が付き、英語がより好きになりました。

高校受験の時も、向学館の皆さんが手厚くサポートしてくれました。中学3年生の私には、周囲の勉強しなさいと鼓舞する声が、時に煩わしく感じることもありましたが、もちろん向学館へ行っても勉強しようと言われていましたが、ただひたすら勉強をするだけでなく、楽しい高校生活を想像させてくれたり、将来のことを考えさせてくれました。受験のプレッシャーに押しつぶされそうな私に、未来を想像させることでモチベーションを保たせてくれました。向学館のおかげで、現在の自分がいます。

高校生になった今、さらにいろいろなことにチャレンジしたいです。まずは短い期間でも海外に行き、世界の広さを知り、再び女川町の良さを見つけたいと思います。



[スタッフの声]

子どもたちの「やりたい」をかなえる機会づくり

NPO法人みやっこベース / スタッフ / 坂本 紗綾

私は岩手県宮古市の出身です。大学卒業後、宮古市のコミュニティFMで働いていました。その後、県外に出たりもしましたが、2023年の5月からみやっこベースで働いています。

現在は子どもたちが安心して通えるサードプレイス「みやっこハウス」の運営と、高校生が地域でボランティア活動を行うことができる学校外のサークル「地域活動部」を担当し、子どもたちとの対話や活動のサポートをしています。

日々子どもたちと関わる中で、自分の「好き」に自信を持ってない子どもが多いことに気づき、それぞれの自己肯定感を育てていきたいと思うようになりました。地域活動部に入ってくれた高校生は、最初は「人と交流することが苦手」「自分に何かできる気がしない」と話していました。しかし、人から感謝の言葉をもらったり、自分で何かできたという成功体験を通して、少しずつ成長していく様子を見ることができました。このような機会を引き続き作っていきたくと考えています。

これまでは地域のニーズに合わせた活動が多かったのですが、これからは子どもたち自身のやりたいという気持ちを引き出し、形にしていくサポートを増やしていきたいです。嬉しいことに、みやっこハウスの認知が広まり、常時利用してくれる子どもが増えています。家庭の忙しさや経済的な制約などによって機会が制限されてしまいがちな子どもにも、多様な機会を平等に提供できるように働きかけていきたいです。



2023年度の支援実績

2023.4/1_2024.3/31

NPO法人かぎっこPROJECT

助成額：3,502,440円



対象
高校生

地域の担い手育成プログラム 高校生百貨店

東北3県の高校生が地元商品をセレクトした
合同販売会を2カ所で実施

岩手県・宮城県・福島県の高校生がバイヤーとなり地元商品を発掘し、地元商品と作り手の魅力を発信する販売会を開きました。ラベルのデザインや売場のレイアウト、広報活動なども高校生たちのアイデアで実践しました。高校生たちは活動を通じて、自分の言葉で地域の魅力を伝えることの難しさと楽しさを学ぶとともに、地元の良さを再認識できました。

居場所機能を備えた学習支援と次世代育成事業

宮城県仙台市・南三陸町の中高校生向け無料学習会を
実施（年間397回、延べ5,000名が参加）

経済的困難を抱える家庭の多い仙台市と、過疎化の進む南三陸町にて、中高生向けの無料学習会を実施しました。学習支援以外にも、キャリア教育や体験活動、季節行事などを行い、様々な人と交流する機会を提供しました。加えて、進路相談や奨学金などの情報提供、食育やICT教育支援にも取り組みました。さらに、支援を受けた卒業生がボランティアに参加するなど、学びの輪が広がっています。

認定NPO法人キッズドア

助成額：10,000,000円



対象
中学生
～高校生

認定NPO法人底上げ

助成額：3,500,000円



対象
未就学児
～小学生

ならはこどものあそびば事業

「こころが動く」を大切にできるあそびば

福島県檜葉町を拠点に、3～10歳の子どもたちが集う遊び場兼居場所「ならはこどものあそびば」の活動を行っています。画材や工作材料を使って創作活動を行ったり、放課後に友達となんでもない会話をしたり、子どもたちが自分たちのやりたいように、やってみたいことを思う存分できるような環境を整えています。子どもたちは「嬉しい・楽しい・嫌だ・悲しい」など様々な感情を共有し合いながら、お互いに助け合って遊びを展開しています。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

助成額：12,000,000円



対象
小学生
～高校生

photo by Natsuki Yasuda/studio AFTERMODE

スタディクーポン提供事業

410名の子どもたちにクーポンを提供

岩手県・宮城県・福島県の経済的困難を抱える家庭の子ども410名に対して、学習塾や習い事等で利用できるスタディクーポンを提供し、子どもたちの学びを支えました。クーポンを受け取ったおよそ95%の子どもたちが実際にスタディクーポンを利用し、新たな学びにつながりました。また、大学生ボランティアが定期的に子どもたちの進路・学習・クーポンの使用について相談にのりました。

(面談回数:1,094回)

Collabo×Station

放課後児童クラブ含む子どもの居場所を3箇所運営 親子体験イベントを年2回開催

キーホルダーやキャンドルづくりなど、子ども向けワークショップを開催している地域の方に協力いただき、10月と3月に「南相馬キッズフェスタ」を福島県南相馬市で開催しました。(子ども約100名が参加)日頃、放課後児童クラブを運営するなかで、保護者が周りの目を気にせず子どもと過ごせる時間が必要だと感じ「子どもだけでなく大人の方も楽しめる会」をコンセプトに企画しました。保護者同士のつながりや保護者とスタッフのコミュニケーションも深まる機会となりました。

NPO法人トイボックス

助成額：11,820,000円



対象
未就学児
～小学生

NPO法人にじいろクレヨン

助成額：3,000,000円



対象
未就学児
～小学生

ハッピーマンデープロジェクト

宮城県石巻市でアートと農園を活かした居場所づくり (48回開催、266名参加)

毎週月曜日にアートや調理、農園を通した子どもの居場所・遊び場づくりを48回開催し、266名が参加しました。農園では、むかご拾いや芋掘りを行い、アート活動ではお絵描きや陶芸制作に励み、それぞれの活動で子どもたちがいきいきと過ごす様子が見受けられました。また、農園で収穫した野菜を使って何か作りたいという子どもの声から「ラーメン部」を立ち上げ、子どものやってみたいを応援し、笑顔あふれる環境づくりに取り組みました。

認定NPO法人フローレンス

助成額：7,598,124円



対象
未就学児
～高校生

医ケア見おやこよりそいチャット / 医ケア見おやこ給食便

デジタルと対面で支援 メッセージアプリ登録85名、
52家庭へ食料品と笑顔をお届け

宮城県仙台市の医療的ケア児とその家族に対し、メッセージアプリでの相談支援（デジタルでのつながり）と、食料品やお弁当の配達を通じての対面支援（リアルでのつながり）の両方を実施しました。また記者会見を行い、医療的ケア児の認知や支援の必要性を訴えました。さらに、医療的ケア児とその家族が情報を得る手段を広げるために、『医療的ケアが必要なお子さんと家族のための支援ガイドブック～仙台版～』を作成しました。

地域の人の知恵を活かし、地域の力を引き出し つなぐ遊び環境づくり活動

宮城県内12カ所で遊び場づくり活動を支援
子どもが遊び育つ環境の拡充

子どもたちの自主性を育みながら、安全に配慮した遊び場の管理と運営を行いました。遊び場では、生き物と触れ合ったり、土遊びや水遊びなど、子どもたちがめいっぱい外遊びを楽しみました。初めは遊び方がわからない子どもも、遊んでいるうちに「これやってみよう」と話してくれるようになりました。また、遊び場づくりを支援する仲間のネットワーク構築、ウェブサイトにて地域資源と知恵を活かした「かつての遊び」の発信、政策提言なども行いました。

認定NPO法人冒険あそび場-せんだいのみやぎネットワーク

助成額：4,500,000円



対象
未就学児
～小学生

一般社団法人まちとこ

助成額：10,000,000円



対象
小学生
～高校生

女川向学館

宮城県女川町で延べ7,755名に学びと居場所の提供

宮城県女川町で、子どもたちが安心して学ぶことのできる居場所と機会を提供しました。学習のサポートや工作イベント、企業と連携したキャリア学習プログラムも実施しました。「商売塾」という活動では、小学生が地元の素材を使って商品を考案し、売り方を考え、女川の祭りに出店しました。町民との交流が生まれ、子どもたちが地域にふれながら学び、成長するイベントとなりました。

一般財団法人まちと人と

助成額：7,000,000円



対象
高校生

石巻の地域と高校をつないで行う、高校生の「自己効力感」と「やってみたい」を育むための教育活動

高校生492名に対して地域で働く大人と出会い、自分の将来について考える機会の提供

高校の授業を活用し、宮城県石巻市で働く若手社会人との対話を通じて自分の将来を考えるキャリア教育プログラムを実施しました。また、実際に地域の事業所にボランティアとして携わる「まきボラ」を実施し、延べ126名の高校生が地域で活動しました。高校生が主体的に地域と関わり自分のことを見つめ直す機会をつくるとともに、次の一步を踏み出すきっかけとなりました。

みんなの「ホッと&ワクワク」スペース事業

高校生や若者の進路や人生を応援！
(延べ502名を支援)

「しゅろハウス」には進路や人生など、多様な悩みを持つ高校生から20代前半の若者がやってきます。悩みも思いも異なるなか、多様な大人たちとの出会いや体験を通して、若者たちは自らの意思で次のステージに進んでいます。就職や進学面接練習、小論文の添削、就職先選び、親子間トラブル、生活面への不安、心身の不調など、しゅろハウスで本音が言える関係性を構築し、得意分野を活かしたチャレンジや次の一步を踏み出す力を育んでいます。

NPO法人まなびのたねネットワーク

助成額：4,891,650円



対象
高校生
～若者
(20代前半)

NPO法人みやっこベース

助成額：8,000,000円



対象
小学生
～高校生

子どもの希望と意志を育むための居場所づくりと体験活動および地域活動支援事業

岩手県宮古市で延べ1,331名に居場所提供、70回の体験機会づくりを実施

街中のサードプレイス「みやっこハウス」では、小学生から高校生まで、延べ1,331名の子どもたちが日常の居場所として利用しました。遊び場所、悩みの相談、進路に向けた活動など、子どもたちそれぞれのニーズに合わせて、日常の充実感や成長の機会を提供することができました。また、小学生対象の自然体験活動として「みやっこファーム」や「みやっこネイチャークラブ」を実施し、宮古市の自然を思い切り満喫し、子どもたちの好奇心や自己効力感の向上に貢献しました。

一般社団法人未来の準備室

助成額：6,700,000円



対象

高校生

福島県の高校生に対する探究学習「マイプロジェクト」支援 伴走ネットワークの構築・強化事業

高校生も大人も、自ら変化する福島の学び。
48の輝くプロジェクト。

ボランティアマッチングプラットフォーム『うずうず』にて、計23種類の活動、80名の高校生を支援しました。自ら課題を設定し探究を進める「マイプロジェクト」の実践が最終目標です。並行して、探究学習に取り組む福島県の高校生を鼓舞するため、マイプロジェクトアワード福島県Summitを開催しました。計48プロジェクト、70名の高校生が学びを共有し、お互いの活動をたたえ合いました。また、高校生の探究学習に伴走する大人の関わりを精緻化することを意図して、白河市・相馬市にて伴走のモデルづくりを行いました。

人の成長を生み出し、 持続可能な地域の未来を築く教育事業

実践的な探究学習を通して、
洋野町の高校生が地域とつながる！

岩手県洋野町の高校生が地域の大人との交流を通して地域と接点を持ち、地域社会に参画することを目的に、高校の「総合的な探究の時間」を活用した実践的探究学習プログラムを実施しました。高校生が感じた地域の魅力・課題を起点に探究やアクションを実施し、町内企業への提案をすることで実践的な学びを育み、地域の“人づくり”と“まちづくり”を行いました。

一般社団法人moova

助成額：2,910,000円



対象

中学生
～高校生



会計報告

[公益社団法人ハタチ基金 決算報告]

正味財産増減計算書 2023年4月1日～2024年3月31日

(単位:円)

科目		2023年度実績		
一般正味財産増減の部	経常収益	受取寄付金	54,646,200	
		受取寄付金振替額	71,583,690	
		雑収益	214	
		経常収益計	126,230,104	
	経常費用	1. 事業費	人件費	0
			助成金	95,422,214
			事務局運営費	6,808,639
			その他事業費	15,903,027
		2. 管理費	人件費	0
			事務局運営費	2,269,547
			その他事業費	5,826,677
			経常費用計	126,230,104
	当期一般正味財産増減額		0	
	一般正味財産期首残高		1,096,100	
一般正味財産期末残高		1,096,100		
指定正味財産増減の部	受取寄付金		137,957,279	
	一般正味財産への振替額		▲71,583,690	
	当期指定正味財産増減額		69,647,786	
	指定正味財産期首残高		290,339,648	
	指定正味財産期末残高		359,987,434	
正味財産期末残高		361,083,534		

- 残高は2024年度に行う事業および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。
- 呼びかけ人の皆様からのご寄付については一般寄付とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動および基金の運営管理など、ハタチ基金の活動全般を長期的に継続していくために使用させていただきます。●ご都合のよい時にいただく都度のご寄付については指定寄付金とし、東北の子どもたちを支援する活動のために活用させていただきます。

2023年度 公益社団法人ハタチ基金助成事業について

助成件数：14件

助成金額：95,422,214円

ご寄付について

いつもあたたかいご支援をくださりありがとうございます。
ハタチ基金では個人寄付・法人寄付でのご支援を承っております。
今後とも応援のほどよろしく願いいたします。

銀行振込

【三菱UFJ銀行】
高円寺支店（店番号：155）
口座名義：公益社団法人ハタチ基金
口座番号：0144274（普通）



個人の寄付



法人の寄付

※大変恐れ入りますが、振込手数料はご負担をお願いしております。

ご支援いただいた皆さま

ハタチ基金では、2023年度、多くの企業・団体さまからのご寄付をいただきました。継続的にご支援くださる企業・団体さまも多く、ポスターやチラシの作成・配布など、子どもたちを支える輪を一緒に広めるためのご協力もいただいております。



アズワン株式会社



株式会社一ノ蔵



株式会社大垣共立銀行



絆マラソン実行委員会



株式会社クオカード



KDDI 株式会社



大王製紙株式会社



大正製薬株式会社



ダイドーグループホールディングス株式会社



株式会社ティーシーエス



株式会社東京書芸館



トヨタ S&D 西東京株式会社



株式会社ホッタ

秋田県高等学校教職員組合増田高校分会 / 維新の会 兵庫県議会議員団 / 維摩池周回チャリティーマラソン / 株式会社インフォーマート / 株式会社ヴィックスコミュニケーションズ / ウクレレエイド / NTT労働組合東京グループ連絡会 / 大分県立大分豊府高等学校演劇部・吹奏楽部 / 一般財団法人カクテル文化振興会 / 株式会社金澤留造酒店 / 株式会社グッドスポーツ / 株式会社グランド・ワン / 株式会社CORE 技術研究所 / 株式会社GOLD / 札幌チャリティーロックフェスティバル / 3.11 祈りのコンサート実行委員会 / 株式会社サンペール / J-POWERグループユニオン / 株式会社ジノ・ソニック / JAPANクラシックミニチャリティーミーティング / 学校法人白百合学園 関町白百合幼稚園 / 株式会社シンセ / 株式会社生活総合サービス / Save the Birthday 実行委員会 / 曹洞宗埼玉第二宗務所青年会 / 株式会社 WJ プロダクツ / チャリティALOHA市場 / T-ハウジング / 株式会社テレビ大阪エクスプロ / 東洋鋼鉄株式会社 / 株式会社トリガー / 日油株式会社 / 一般社団法人日本サロネーゼ協会 / ハタチ基金チャリティコンサート2023 / 2023年7月ハタチ基金チューリッヒチャリティーコンサート / はるをよぶチャリティーコンサート実行委員会 / BSN 愛の募金 / 株式会社東日本放送 / 広島県中小企業家同友会 尾道支部青年部 / 法政大学第二高等学校 / 松谷商事株式会社 / 株式会社馬里奈 / 三菱UFJニコス株式会社 / mog&yoga / モスバーガー 共栄会東北支部 / 株式会社ライフコミュニケーション / LINEヤフー株式会社 / 株式会社ラビート / 一般財団法人リスモン財団 / リンクアンドサポート株式会社 / ※ 敬称略・五十音順

※ その他、たくさんの方の企業・団体さまからご支援をいただきました。

支援者様からのメッセージ

一般社団法人日本サロネーゼ協会

桔梗 有香子 様

毎年、11月9日の「アイシングクッキーの日」に、チャリティコンテスト・チャリティイベントを開催しています。昨年度もアイシングクッキーやデコスーツの講師たちが全国の支部で様々な企画をし、たくさんの方がチャリティイベントに参加して下さいました。支援の輪は、年々大きくなっているように思います。「好きなことで社会貢献を」の想いのもと、これからも私たちだからできる形で活動を続けていきたいと思っております。



個人寄付者様からのメッセージ

- ・震災時にボランティアで親を亡くした子も含めて、子どもたちのお世話をしていました。今は自分の子どもができたので手一杯で、遠くからの寄付だけがお手伝いさせてください。
- ・震災から10年ちょっとで大分風化してしまっている現状に対し、自分自身の反省の意味でも支援させていただければと思います。
- ・今を生きる、希望をたくさん持った子どもたちの支えに少しでも貢献できればと思います！



ハタチ基金

● 各種変更をご希望の場合

寄付金額、クレジットカード、領収書の宛名変更等のお問い合わせは
右記 QR コードまたはメールにてご連絡ください。

● 遺産・相続財産の寄付をご検討されている場合

まずはメールにてご相談ください。

メールアドレス
info@hatachikin.com

お問い合わせ

